

「竜王の滝」は別名紫藤の滝。菅公が滝に打たれるとき、衣をかけた石が衣かけ石。滝の流れの中に石塔があり、漢詩が刻まれている。中秋の名月には観月会が催される。天拝山頂でかがり火を焚き、菅公の霊を慰める。

○152 句目「故園來幾年」の「故園」について

菅原道真の『書斎記』にある次の一文が念頭にあったものと思われる。

「372 書斎記」

東京宣風坊有一家。家之坤維有一廊。廊之南極有一局。局之開方纔一丈余。投歩者進退傍行、容身者婦居側席。先是秀才進士出自此局者、首尾略計百人。故学者目此局爲竜門。又号山陰亭。以在小山之西也。戸前近側、有一株梅。東去數歩、有數竿竹。每至花時、每當風便、可以優暢情性、可以長養精神。

(新日本古典文学体系『本朝文粹』卷十二 三三三頁)

「宣風坊」は京都の菅原邸の庭園または白梅殿ともいわれる。その隣の屋敷は紅梅殿と言われている。太宰府天満宮の白梅が、京都から一夜にして飛んできたといわれる「飛梅」である。

(田中 陽子)